

2021 年度実施概要

学校名

洋野町立角浜小学校

採択活動名

海洋学習「ふるさと角浜」について

実施単元

単元名	学年	教科
1. 海となかよし ～角浜のよさをつたえよう～	1・2年	生活科
2. 角浜調査隊 ～角浜について知ろう～	3・4年	海洋科
3. ふるさと角浜 ～角浜の未来について考えよう～	5・6年	海洋科

取り組みの概要

《実践の概要・ねらい》

豊かな海を素材の中心とした体験的な活動や探究的な活動を通して角浜地区にある自然や社会、人々の工夫や努力、願いへと徐々に視野を広げ、「ふるさと角浜」を誇りに思う気持ちを育てる。また、課題解決にあたって地域の良さや先人の知恵と志の高さ、産業と自然、社会との関わりを多面的・総合的に考え、学んだことを主体的に表現する子どもを育てることを目指した。今年度もコロナ禍の影響で、当初の計画通りにできない活動もあったが、修正を加えながら様々な体験活動を行い、児童の学習を深めることができた。

《全校での活動》

- 角浜漁港付近の磯掃除を実施した。これは、特産品であるウニのえさとなる海草を食べてしまうツブ貝の駆除と海岸のゴミ拾いを目的として毎年1学期に行っている。今シーズンはツブ貝が少なく、高学年は海草が減ってきているのではという新たな問いへとつなげるきっかけにもなった。
- 校内海洋発表会を実施し、各学年の学びの成果を見合う機会をもった。本来は授業参観として保護者や地域の漁協の方、お世話になった見学場所の方を招く予定だったが、感染防止のため児童のみの開催とした。学習の成果を認め合うとともに次学年の学習を見通すことができた。



《1年生の取組「海となかよし」》

- 地域の海に親しむ活動として磯遊びを行い、カニやツブ貝などの生き物を捕まえて観察した。実際に生き物を見たり触ったりすることで、自分たちの住む地域の海を身近に感じ、親しむことができた。
- 洋野町海浜公園の砂浜で、砂遊び・海の宝物集めを行った。持ち帰った材料でキャンドルホルダーを作ることで充実感や満足感が生まれたと考えられる。また、地域の岩が多い海岸と砂浜の違いを実感することができた。



《 2年生の取組「海となかよし」 》

- 年間を通して地域の様々な場所で見学を行った。海や地域の人とふれ合うことで、地域の様子について詳しく知ることができた。地域のワカメを加工販売している梨忠商店の方に話を聞き、海に関わる仕事をしている人達の苦勞も知ることができた。
- 夏と秋に海岸探検を行い、雰囲気や浜風のにおいの違いについて五感を働かせて感じる事ができた。



《 3・4年生の取組「角浜調査隊」 》

- グループごとにテーマを決め、クボ貝を活用するメニューを考案した。ウニのためにクボ貝は駆除するが、海の食材であることを実感するとともに、地域の食材についての知識も広げることができた。
- 磯掃除の時に生き物を観察し、生態などの特徴を調べ、図鑑にまとめた。角浜の地域に生息する海洋生物への関心をもち、生き物の命の大切さを改めて考えた。
- 北三陸を走るレストラン列車に向けたエモーション活動を行う準備をした。今までの学習を生かし、洋野町・角浜の良さを伝えるための絵やメッセージを盛り込んだ横断幕を作成した。また、エモーション活動のはじまりを調べることを通して、復興学習へもつなげることができた。



《 5・6年生の取組「ふるさと角浜」 》

- 地域の特産品であるウニを取り巻く現状についての学習をした。ウニ栽培センターではウニの生態を詳しく学習し、北三陸ファクトリーでは生産量や知名度を上げるための新しい取り組みについて知識を広めた。それらの学習を通して、ウニが現在抱えている問題を知り、洋野町の未来について考えることができた。
- 学習したことを生かす場として、海洋サミットに向けて「ウニPR大作戦」を考えた。児童の柔軟な発想で、PR動画やゲーム開発、ペープサートなど、学んだことや考えたことを分かりやすく伝えようと意欲的に活動し、表現力を高めることができた。
- 海洋教育子どもサミットに参加し、東北地方の小中学生の取組を動画で見た。また、海洋の旗を作成し、各自のねらいについて他校と交流した。様々な学校の取り組みを知ることで、今後の学習と視野を大きく広げる機会となった。

